

●第174号(二〇一四年三月)

特集 自治体の未来を切り拓くオープンデータ

- 1 識者インタビュー…オープンデータが切り拓く未来の社会
  - 小宮山宏、小林一美
- 2 座談会「横浜の情報戦略とオープンデータ」
  - 庄司昌彦、杉浦裕樹、龍治玲奈、鈴木隆
- 3 国におけるオープンデータの取組
  - 早田吉伸
- ①内閣官房におけるオープンデータの取組「世界最先端のIT国家を目指して」
- ②総務省におけるオープンデータの取組 後白一樹
- ③経済産業省におけるオープンデータの取組 宮里孝則
- 4 横浜におけるオープンデータの取組と課題
  - 関口昌幸
- ①横浜におけるオープンデータの推進―その意義と目的
- ②オープンデータの基盤を創る 御園生智之、太田幸希
- ③民間との協働でオープンデータの活用をどう進めていくか 関口昌幸、上野直樹
- ④多様性×技術で起こすイノベーション〜かなざわ育なび.net 石塚清香
- 5 海外・他都市にみるオープンデータの取組
  - 庄司昌彦、渡辺智暁
- ①海外のオープンデータの取組
- ②データシティ鯖江の取組「市民主役、市民協働のまちづくり」 牧田泰一
- ③オープンデータにおける自治体間連携の必要性 三木浩平

＜コラム＞横浜インテリナショナルオープンデータデイ2014

- 横浜オープンデータソリューション発展委員会 編集部
- 職員座談会…オープンデータの基礎知識
- 職員座談会…オープンデータと新しい行政の形
  - 太田幸希、河合太一、岩下篤、新宅史明、石井夕美、十鳥美津子

●第175号(二〇一四年十二月)

特集 横浜の人口を読む

- 1 はじめに「人口を読む視点」 編集部
- 2 施策の中の人口 編集部
- 3 横浜の人口動向の全体像をつかむ「人口静態・人口動態からみる特徴」 宮坂彰志、長山賢
- 4 将来人口推計のメカニズム「見えにくい未来と向き合うために」 鈴木康弘、望月正毅、万年邦佳 編集部
- 5 人の移動を読む②つの視点「GISを活用した「駅周辺エリア」と「子育て世代」の動態分析」 林正貴
- 6 居住地の選択と定住意向の変化「横浜市民意識調査から」 林正貴
- 7 区別人口動態分析
  - ①鶴見区 区民はどこから転入しているのか？「隣接自治体との連携可能性を考える」 栗竹史明、霧生浩司、川原宏美、佐藤裕子
  - ②港北区 定住層を呼び込むには「区の人口動態・地域から考える」 竹ノ内真行、松本貴之
  - ③保土ヶ谷区 人口減少時代の施策立案 武内伸輔、竹内健郎
  - ④金沢区 金沢シーサイドタウンを中心とした居住者特性分析 鎌倉京子 編集部
- 8 少子化の構造と動向「40年の過程が問うもの」 金子隆一 編集部
- 9 海外における子育て支援施策
  - おわりに「横浜を取り巻く「生態系」とともに」 天野馨南子 編集部
- 10 現場から政策を切り拓く
  - ①座談会「求められる虐待防止と養育支援 増沢高、濱陽太郎、奥本千代子、関口昌幸
  - ②市立保育所を活用した養育支援強化モデル事業の実践報告 野田晴子、藤浪博子、奥本千代子、森山祐子、中村かおり
- 文化振興課主任調査員研究レポート
  - 自治体文化資本論のためのスケッチ 鬼木和浩
  - 調査研究レポート
    - 水辺から横浜の風景を創る「SUPで仕掛ける水辺再生」 桂有生、椎橋成年、關佑也

編集後記

2009年、「ガバメント2.0」について、世界で初めて宣言された文書の中で、タイムオライリーは、「政府はプラットフォームになるべきだ」と言った。

政府がプラットフォーム？一体、何を言っているんだろう、このオヤジは。それだけではない。「民主主義のためのアプリコンテスト」、「標準化されたAPI」、「データと地図のマッシュアップ」、「リアルタイム・エコノミー」、そして「DO IT OURSELVES」と理解不能な言葉と概念のオンパレードだ。アメリカ人は、本当にこれらの言葉を理解し、ガバメント2.0の思想によって、新しい政治と経済の仕組みを創ろうとしているのだろうか？というのが、3年前にこの文書を読んだ時の私の率直な感想である。

それから3年。私はオープンデータを手掛かりにして、実に多くの事業者やNPOのスタッフ、研究者や政治家、公務員、そして様々な形で地域のために働く市民の方々と出会い、昼夜の別なく語り合い、共に汗を流した。この協働・共創の過程の中で、心の底から笑い、怒鳴り、説得し、説き伏せられ、そして心の中で泣くといった日々を繰り返した。

その一つの結実が今回の調査季報176号だとするのならば、時代を切り拓く新しい言葉や思想は、仮に研究室の中でたかさんの本を読んだとしても獲得できるものではなく、血み泥の実践の中でこそ自分のものにするこがと確信する。

今の私は、タイムオライリーがいうところの「ガバメント2.0」の本当の意味を、多くの仲間たちと共に噛みしめることが出来る。そして、今、横浜は世界の中でも「ガバメント2.0」に近い自治体の一つだと思ふ。

(関口)

「オープンイノベーション」を今回の調査季報のテーマとして取り上げるに当たり、「伽藍とバザール」(エリック・S・レイモンド著)をもとよりこの本は主としてオープンソース・ソフトウェアの開発プロセスを考察の対象とするものであるが、エリックが擬えた「伽藍」と「バザール」の対比の鮮やかさからは、より普遍的な意味を感じることが出来る。

「伽藍」は原語ではCathedral、すなわち大聖堂であり、その威容はウォーターフォールモデルを彷彿とさせる。とはいえ大聖堂も様々である。世界最大のゴシック建築物であり、世界遺産にもなっているケルン大聖堂は建築開始から完成までに六百年以上を要したことで知られる一方、同様に世界遺産となっているサグラダ・ファミリアは、ガウディの突然の死により永遠に完成しないと思われていたところ、全世界から多くの観客が結集し、今やガウディ没後百周年でもある2026年までの完成が見えてきた。

振り返れば、我が横浜駅は「日本のサグラダ・ファミリア」と呼ばれて久しいけれども、本家サグラダ・ファミリアの如く、様々な人々や団体が地域や社会の課題解決に向けて一座建立で「イノベーション」を創り出す、正に知的喧騒に満ちた「バザール」がこの地に立ち上る、その萌芽を確かに見定めることができたように思う。もうすぐ春です。(長谷川)

編集・発行  
**横浜市政策局政策課**  
 〒231-0017 横浜市中区港町1-1  
 TEL. 045-671-4087  
 FAX. 045-663-1225

2015年3月発行

印刷/有限会社 ハマ印刷

500円(消費税込み)